

足立区基本構想審議会 第3回くらし専門部会 会議録

日 時 平成27年10月26日（月曜日） 午前10時から12時

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会 くらし専門部会委員（8名）

石阪督規委員、小久保兼保委員、鈴木健文委員、大塚和夫委員、益留有紀委員、馬場信男委員、たがた直昭委員、おぐら修平委員

事務局：基本構想担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

オブザーバー：地域のちから推進部3名、産業経済部1名、衛生部1名、福祉部3名、環境部1名、政策経営部1名

議題等 1 意見交換

（1）将来像 まとめ

（2）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念） まとめ

2 事務連絡（次回の予定）

資 料 【資料 く⑤】くらし専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

基本構想担当課長：皆様おはようございます。お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会第3回くらし専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。本日のオブザーバー出席ですが、地域のちから推進部・産業経済部・福祉部・衛生部・環境部・政策経営部の職員です。それでは、石阪部会長に進行をお願いしたいと存じます。

石阪部会長：皆さん朝からありがとうございます。今日が部会の最終回ということになって、今日取りまとめて、そして全体会で議論を進めていくわけですが、今日は専門部会の中でも、前回は将来像を皆さんにお話をいただいて、お手元にまとめていただいておりますが、今日は基本理念の方を含めて最終的にこちらの部会としての案をまとめさせていただければと思います。それでは、まず、皆さんにお話を伺う前に、事務局から配付資料の確認をお願いします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きまして、A3版の資料く⑤と表示のくらし専門部会課題整理、及び将来像等検討シートです。これは前回配付のものの内容を更新したものです。続きまして、委員の皆様には足立区基本構想審議会の12月以降における開催案内です。ご多忙の折恐縮ですが、ご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。最後に、また委員の皆様には参考として、前々回、及び前回の会議録を配付してございます。前々回が33ページ、前回は30ページとなっております。

石阪部会長：かなり会議録もボリュームミーなものになりましたが、確認等をして何かありましたら事務局にお伝えいただければと思います。

1 意見交換

石阪部会長：それでは、次第の(1)、まず、意見交換ですが、資料について事務局から説明をお願いします。

基本構想担当課長：それでは、A3版の資料く⑤と表示のくらし専門部会課題整理及び将来像等検討シートをご覧ください。前々回、及び前回と意見交換をしていただいた内容を元に論点などを整理しましたが、一番下に区民あだちサロンや中高生ワークショップで出された補足となるような意見も加えさせていただきました。部会としての将来像、これは区のあるべき姿、そして基本理念、将来像を設定した根本となる考え方を本日まとめていただくための案をたたき台としてお示ししたものです。なお、将来像や基本理念については、12月以降の全体会で、他の専門部会の案と改めて調整や取捨選択等をしていくことになりますので、本日もしも固まりきらなかった場合は、最低でもこのキーワードや考え方は重要というような点は残していただきたいと存

じます。

そして、この資料く⑤は本日のご審議の後に再度更新することになりますが、意見交換の内容を区民の皆様にも知っていただくため、基本構想審議会の中間報告のようにしてホームページ上で公開したいと考えております。時期は、四つの専門部会が揃う 11 月下旬以降を予定してございます。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

全体会の内容については、株式会社地域計画連合より説明させていただきます。

地域計画連合：おはようございます。私から前回の振り返りと今回の資料の内容についてご説明させていただきます。まず、前の方にある 2 枚の模造紙が、前回 9 月 28 日になりますが、第 2 回で皆さんに議論をされた時に、私の方で記録した内容になっております。この時、事務局で作ったたたき台に対して、皆さん新しいこういうイメージというものをいろいろ出していただきました。こちらから紹介していきます。

まず、コミュニティの話ですね。多様な世代が交流出来るように。あとは下町コミュニティ、そういったキーワードもその時に出不されています。今までにないつながりを生む仕掛け、そういったところが皆さんの大きな思いとして出されていました。次にこれがオール足立とか一体感とか、ネガティブなイメージを払拭するような新しいシンボリックなものを作って、それを発信していく必要があるということで、こういったキーワードが出不されています。3 点目はこちらで、意外と行ける。もともと住んでいらっしゃる皆さんが、足立区に対して少しネガティブなイメージを受け入れているのですが、外の人もネガティブなイメージを持っているのですが、住んでみると意外とよいまちなんだと。そのようなまちなのだというご意見が前回出されていました。こちらの方がまた新しく出たのですが、お金をかけずに豊かに暮らす、そのようなのが足立区らしさだということで、そのためにはみんなが協力し合うことが必要だ。そういった意見が出不されていました。高齢になっても楽しく暮らせるとか、企業が元気で雇用を生み出す。で、その企業をみんなが育てる、そういったことも出不されています。また連携のところでは、産学官連携、大学との発展、そういったものが出されていました。また、障がいのある方が多いのが足立区の良さでもあるというご意見も出不されています。最後に健康でいられる。これはもともとの将来像に近いものだったのですが、やはり健康で長生き出来ることを目指してはどうか。そのためには心の健康づくりが必要だ。健康でいることは、一人ひとりの意識、区民の自己管理が大事である。行政任せではない区民の一人ひとりの意識が大事だというご意見が出不されていました。

こういったことを踏まえまして資料⑤、今回黒字の部分と赤字の部分がございます。赤字の部分は、この第 2 回を受けて付け加えたところ。もしくは文言を修正したところになっています。まず、くらし専門部会の課題と左側にある方には、赤字のものがいくつか追加されていますが、世代を超えて気軽に集まれる場。下の方に行きますと、中小企業をみんなで磨いて育てることが必要だとか、そういった第 2 回で新しく出た課題はこちらの方に追加しております。

右側を見ていただきますと、だいぶ赤字ばかりなのですが、前回、第1回から第2回にかけての資料としては、黒丸印であるようなあるべき姿のキャッチフレーズだけたたき台として書いておりましたが、皆さんの思いをより分かりやすくするために、少し下に数行説明文を加えました。それを加えまして、今回足立区らしい多様なコミュニティが生まれるまちと、2点目がお金をかけずに心豊かに楽しく暮らせるまち。3点目が生涯にわたって健康でいきいきと活躍出来るまち。4点目が一体感を醸成するシンボルを作り、積極的に発信していくまち。この4点に整理をいたしました。

この下に矢印が出ていまして、基本理念・将来像を設定した根本となる考え方として、一体感という言葉がありますが、皆様のお話の中でこの一体感というものが一番根本にあるのではないかと受け取りまして、今回これを考え方の方に設定しております。今日はこちらの右側のものをブラッシュアップして、くらし専門部会として全体会にどのようなご提案をされるかというところでご議論をいただければと思います。

下の方に、先だって区民あだちサロンとか中高生ワークショップなどで、そちらでも課題や将来像について書いていただいております。審議会におきましては、この区民参加でいただいたご意見を踏まえて、答申まで持っていつていただきたいところがありますので、今回あえて掲載させていただきました。将来像の方を紹介させていただきますと、これはいろいろな世代。特に子どもたちから結構出ているのですが、地域の絆が深まるまちとか、みんなで見守っていけるまち。あらゆる世代が元気で暮らしやすいまち。団結感があるまち。あいさつが飛び交うまちなど、そういったくらし部会にかかわる部分を少しピックアップしておりますので、こちらも参考にいただければと思います。

石坂部会長：ありがとうございます。今のお話にもありました通り、前回までの将来像、赤字で加えていただいたところプラス、今日は基本理念についてまとめていく作業が中心になると思います。基本理念ですが、本来であれば足立区の基本理念のようなものがドンとあって、そこからあるべき姿は何なのかということを考えていくのが普通だと思うのですが、先にあるべき姿が出てきていますので、これを踏まえて足立区で今一番大事なものは何か。基本となる考え方や理念をどこに置くべきなのか。あまりいっぱいあっても困るわけですね。10個もあると基本理念が一体何なのかよく分からなくなるので、足立区にとって一番大事なもの。今の足立に求められている基本となるものを一つ理念化する作業が大事だと。そのような意味では一体感というのを作っていただいて一つ選んでいただいたというのは、皆さんとのいろいろな議論の中で、まず、足立区というのはもともと地域バラバラでそれなりに個性もあるのだけれども、例えば新しい方もいれば昔から住んでいる方もいれば、いろいろなところがあって、お祭りとかそのようなものもあると。では、まずは地域を、それぞれの地域性に配慮しつつも、オール足立としての一体感を持っていろいろなイベントであったりとか、そういったものも頑張っていこうではないかという議論がまず一つありました。老若男女という意味で言うと、若い方から年配の方までいろいろな人が一体になれるような、それこそ祭りがそうですが。あとは例えば大学連携などもそうですが、

みんなで力を合わせて、中小企業とも連携をして、例えば連携とか一体、そのようなものを包括するようなキーワードであるのかなという意味で、おそらく一体感ということで、この言葉がよいのかどうかはまた別ですが、他に何があるかということになるわけですね。

前回、皆さんにいろいろ出していただいて、コミュニティも大事だねとか、あるいはお金がかからないとか、それから健康も大事ですよという話が出たけれども、これのある意味では包括するような何か基本理念。それらに浸透している、共通しているような基本理念。これを皆さんと一緒に今日は考えていきたいと思います。先ほどもありましたが、下の方に区民あだちサロン、及び中高生ワークショップと書いてあって、主に中高生なのでしょうか。いろいろでしょうか。ここにも少し配慮してくださいということです。下を見てみますと、活気があるとか、高齢者が活躍出来るとか、あらゆる世代が元気であるとか、居場所、安心・安全・信頼、そして団結感、あいさつ。いろいろバラバラとあるのですが、今日はまず皆さんに伺いたいのは、キーワードでもかまいません。単語でも結構です。こういう単語が足立区には必要なのだ。あるいは、こういう考え方がすべてのあるべき姿に共通しているということがあれば、少し考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

今日は皆さんに基本理念を出していただく前に、もう一回確認したいと思います。あるべき姿。足立らしいというこの上のところですね。多様なコミュニティが生まれるまちということで、これは前回からいろいろな問題がありましたね。新しい住民、マンションの方とか、そのような方も受け入れて、多様な人たちが交流出来るそのようなコミュニティを作ろうではないか。これはおそらく異論はないと思います。祭り・コミュニティ・町会・自治会も含めてですね。

それから二つ目のお金をかけずに心豊かに楽しく暮らせるということですが、これはいかがでしょうか。これが入っているというのは、足立区らしいと言えばそうですが。これはどういったことかということ、ざっくりばらんに言えば貧乏な人でも経済的な豊かさよりも、何かそれに代わる心の豊かさであったり、あるいは何か経済的な面を追い求めることだけではなくて、もっと幸せが別のところにあるのではないかという意識をあえて言葉にしてみたのだと思います。経済一辺倒ではない、暮らしやすさであったりとか、人の温かさ、助け合い、こういうものも生きるためには必要なのではないかというニュアンスがここには入っている気がします。この辺が他の地域とは違うところだという気がします。ちなみに、前回の基本理念が、協働で築く力強い足立区の実現。これはどちらかというと経済力を含めてガンガン前に進んでいくというイメージが強いのですが、それよりもソフトな気がしますね。

三つ目ですが、生涯にわたって健康でいきいきと活躍出来る。これは健康のところにもありましたが、これから足立区は健康寿命の延長も含めてとにかく健康であること。その背景には、単に病院に行って生きているということではなく、自己管理することによって健康であり続けようという、それぞれ一人ひとりの自覚が求められる。だけど、足立区にいればそういったことも含めて健康でいられるのだというイメージ。

で、最後ですが、足立区にはネガティブなイメージが外に対してあると。足立区の

方は謙虚なので、自虐的に意外と行けるといったようなことを言って笑ったりもしましたが、それだけではなく、今後はむしろ一体感を持つような、むしろシンボリックなものがある程度想定すると。これは何でもよいですね。ものとかスポーツとかそんなものではなくても、何か足立区に共有出来るようなシンボリックなものを掲げて、オール足立の体制で、特に対外的に足立区の良さのようなものを発信・アピール出来る、そんな単語があるとよいなということです。いかがでしょうか、皆さん。こんな感じで前回までの議論をまとめさせてもらったのですが。下の方には中高生などのいろいろな意見があるのですが。こう見ると、結構網羅されている気がします。見守っていけるとかあいさつが飛び交うというのは、後からコミュニティということにもつながるし、心豊かな暮らしということも入るし、それからそれぞれの年代に合った居場所があるとか、それぞれの世代が元気で暮らせるというのは、例えばこれは一体感であったりとか、生涯にわたっていきいき暮らせるという高齢者対策などもここに入ってくる気がします。

あと強いて言うと、いかがでしょう。皆さんに伺ってみたいのは、こういうことが言えた方がよいという視点。一つ左側を見ると、例えば雇用とか企業について加えていただいています。消費、それから大学連携、それから居場所づくり。このようなところが赤字で書かれていて加えていただいたものになります。これを踏まえて一体感というのが出てきたわけですが、さて、どんな言葉を取り上げていくと、足立区すべてを網羅出来るような言葉につながるのか。おそらく私のイメージですが、全体会に持ち上がっていくと、削られたりくっつけられる可能性が高いと思います。全部が載るわけではなく。前回でもたった一つですから、基本理念は。協働で築く力強い足立区ですから。そう考えてみれば、あまりいっぱい三つも四つも出したところで、それがすべて反映されるということではないので、まずは聞きます。この一体感については皆さん言葉としていかがですか。足立区を象徴する理念として。

一つ誤解されると思っているのは、すべてを同色に染めるというふうに理解されると嫌だなと思っているのですね。それぞれ個性があるにもかかわらず、何かどこかの国が一億総何とかといったようなことを言っていますが、それはそれでよいのですが、あまりそれを強く出してしまうと逆に取られる可能性があるということですね。取り方の問題なのですが、だから一体感というのが果たしてどういった意味で取られるかなという心配が少しあります。だからここに地域の個性や特徴、個性を大切にすることを踏まえての一体感だったらよいと思います。これはどのように思いますか。

馬場委員：確かに、今までは一体感があまりなかったのかなと思われるかもしれませんが。もともと一体感はある、コミュニティのあるところですので、あまりこれが一つキーワードとして出てくるのは馴染まないかなと思います。

石阪部会長：むしろそのような意味では、もともとあるにもかかわらず、なぜ今更一体感なのかというよりは、では、例えば上の四つの将来像の中で言うと、どのあたりが一番足立区の理念としてよいでしょうか。

馬場委員：私自身は2番目のお金をかけずに心豊かにということなのですが。これが一番ではないかと。これから高齢社会になっていきますね。今までの基本構想が力強い足立区の実現だったのですが、力強さというのは当然ある時期必要だったと思いますし、これから人口もある程度増えて、これが高齢化していくということになると、その先はもう一回力強いではなくて、次の段階の流れになってくるのかなというところだと、例えば協働は協働でよいと思います。みんなで築くことですから。力強いを例えば心豊かに楽しく暮らせる足立区の実現であれば、流れとしては変わってきたなと。

石阪部会長：いわゆる力強い成長というのを足立区は理念としてこれまで置いていたのですが、そうではなくてむしろ次のステージにこの10年間は行くべきだろうと。お金をかけずにというのは別にしても、少なくとも経済とか力強さに代わる、心の豊かさとか、あるいはみんなとの協働だとか、そのようなものに力点を置くと、イメージが変わっていく感じがしますね。

馬場委員：高齢の方が増えてくれば、そのようなところを当然求めてくると思います。力強さとか経済の強さとかまちの発展ということよりも、人と人とのコミュニティとか、区民の希望と言うか、ある気がします。

石阪部会長：おぐらさん、いかがでしょうか。

おぐら委員：先ほどもいろいろお話をいただいたところと同じような私も感覚でして、これから人口減少社会に突入していくわけですし、高齢化もどんどん増えてくる中で、経済的な発展だとかそのようなところも1人でやっていくわけですから、それよりもいろいろな経済成長をずっとやってきて、今まさに成熟期。またこれから人口減少社会に突入していくわけですから、そうした今までは経済大国の中での力強い足立ということが基本構想の中にありましたが、これからは成熟という観点からどのように足立区のまちをしていくのかという視点が入れていければよいなと思います。

その一つのキーワードというのは、お金をかけずにという言葉を入れるかどうかは置いておいて、まさに心豊かに楽しく暮らせるまちというのが、まさに一つ出てくるのではないかなと。

石阪部会長：むしろそこは基本理念になり得る表現ですね。

おぐら委員：例えばそれが皆さんそれぞれの生きがいの中で仕事であったりとか、地域の人とのつながり、コミュニティや趣味・ボランティアであったり、いろいろな人たちがかわりながらまさに楽しく暮らせるというところ。それがイコール経済的な豊かさともイコールではないという、その新たな価値観のようなものを発信していけ

ればよいのかなというところですね。まさに、おっしゃったように、最初の幸福だとか暮らしやすさだとか、そのようなところをメッセージとして発信していければと思います。

石阪部会長：そうですね。たがたさんも同じ意見でしょうか。

たがた委員：ここ数年と言うか、ずっと協働という一つのキーワードで来ましたので、結構区民の方からは協働、協働ということで、かなり意識的に皆さんに伝わったと思います。で、その中である程度伝わった中で、やはり次のキーワードというのは、皆さんと一緒になのですが、私はむしろ先ほど言ったお金をかけずには別として、心の豊かさを得ることが出来るという、やはりここが一番大事なかなということを非常に思ったと同時に、この一番下の中高生のワークショップって、やはりこれにすべて網羅されていると思います。これらすべての網羅がコミュニティの生まれるまちという部分ではないかということで、これがうまく両立、コミュニティと心の豊かさが出来ればよいと思います。

石阪部会長：協働という言葉も、阪神淡路大震災ぐらいから言われるようになってきて、2000年ぐらいからいろいろなところで使われて、少し古いイメージがありますね。これが出来た時は良かったと思いますが、これからの10年間を考えると、何か違う表現の方がよいと思います。協働の理念は分かるのですが、前回も使っていますので、これをまた入れるのはどうかなと思います。ただ、それに代わる心豊かなとか、楽しく暮らせるというのもよいですし、この下の中高生やサロンから出た中では、活気にあふれた熱いまちというのは経済成長を含んでいるでしょうけれども、それ以外の言葉というのは力強さとか成長というものを皆さんあまり言っていませんね。ガンガンと行くことを足立区に求めている、これは一つ面白いところではないかと思います。小久保さんいかがでしょうか。

小久保委員：今日来る前に右側の部分を考えていたのですが、整理されてくるに従って難しくなってきますね。1番目はコミュニティはこれでよいのですが、町会にしる地区体にしろ区全体にしるですね。これはもう連帯感というような言葉が適当なのではないかと考えます。

石阪部会長：緩やかにつながるコミュニティづくり、これが連帯感といったものになるでしょうか。

小久保委員：2番目のお金をかけずになのですが、生涯学習で心豊かにするとか、心豊かにというのが私のキーワードとしてよろしいのではないかなと考えています。

次に、健康で活躍出来るというところがあるのですが、活躍しただけではなくて、その知識を発散・活用、あるいは次のことにもつながるのですが、シンボルづくり、

積極的に発信していくというところで、これは足立区を爆発させるとかですね。そのような何かキーワードに強く通じるのではないかということを考えました。

その下の一体感のところが非常に難しくて、足立区と言ったら何なのかというところが出てこないのですが。やはり、あ、あれね、というようなものですね。何だか分からないのですが、そのようなものがあるとよいという感じがしています。

最終的には、今まで何かある形とかものとか、いろいろなものにこだわってきているのですが、もっと抽象的でもよいのではないかと思います。

石阪部会長：よいと思います。先ほどの意見も心豊かなとか。

小久保委員：美しい足立か、ビューティフルな足立とか、何かそのような抽象的な言葉でも、周りから認められるような足立であればよいのではないかなと思います。

石阪部会長：ここは必ずしも具体的なものではなくて、理念ですから。ただ、その美しさというのを翻訳しなければいけないと思います。例えばビューティフルだという時に、どこが、何が美しいのか。つまり見た目だけではなくて、心であったりとか、何かそのようなものも含めて美しくなければならぬとかですね。ただ、このキャッチフレーズと言うか、理念なのか分かりませんが、ビューティフル足立とか、美しい足立とか、そういったものは面白いのかもしれないですね。鈴木さんいかがですか。

鈴木委員：この10年、今までこういったものを決めてきて、ある程度形というのは出来上がっているような気がします。だから、それを肉付けと言うか、それがまだ盛り上がっていないのではないかなと。もう少し基本的なところに返って、自然発生的なものを大事にして、それを輪を広げていく。それを枠の中に収まるなら収めていく。全般と言うか、中に取り込むとよいのではないかと思います。

キーワード的に言うと、2番目の豊かに暮らしていけるまち。そういったところに集約されるのではないかという感じがします。

石阪部会長：おそらく日本も昔には古き良き共同体のようなものがありましたね。やがて近代化と共にそれが壊れていって、それに代わる新しい会社だとか、あるいはもっとシステムティックな組織というのはそこに生まれて、効率であったり経済性を重んじる社会になってきました。これが高度成長期であったと思うのですが、ところがこれを突き詰めていた足立も力強い足立でずっとやってきたわけですが、おそらく皆さんそこに懐疑的になっていて、このまま人口が増えていくわけでもない。経済力が増えていくわけでもないのに、そういったものだけで問題は解決出来なくなっている。新たなコミュニティのようなもの。それが古き良き共同体に戻るという意味ではなくて、何かをそこで経済的なものに代わるものを作っていく。ある程度自然的なものも取り入れながら新たなものを作っていかなければ、多分その先のステージには行けないのではないかとみんな思い始めていますね。そこなのですね。この基本理念で必要

なところというのは。だからこれは非常にストーリー性のある流れだと思います。だから今の自然回帰でもないですが、また新たなものを作りながらも、元あるものを取り入れながら、自然に輪になって何かが出来ていくところが必要で。新しいものを作るだけではなくて。大塚さん、いかがですか。

大塚委員：よくまとまっていると思うのですが。前の構想で魅力的なというキーワードがあったと思うのですが。今度もそれはよいと思います。

石阪部会長：前回の将来像のところで、魅力と個性のある美しい生活都市というのがありますね。

大塚委員：魅力という部分は、これからもっと掲げていくという意味でそれは必要な表現だと思います。

2番目のお金をかけずにというのをもし入れるなら、あまりお金をかけずにとか。全然かけないというのも非現実的なので。

石阪部会長：今後何かが発生した時に、ある程度のところにはお金をやはり投下しなければいけない時も来るので、あまりけちくさいことを言ってもということですね。

大塚委員：それと2番目の心豊かに暮らせるというのは、それはかなりキーワードでよいと思うのですが、これは心の健康につながって、健康の向上にそれ自体が役立つのではないかと思います。最後のところの一体感のところですが、いろいろ一体感とかオール足立と表現をしていますがこの表現で一体感を持つのは住民ですよ。企業も最近は社会貢献をするところが増えていきますので。大企業でも中小企業でもあると思いますので、そのようなところもうまく引き出していくとよいと思います。あとは学校とか行政ですね。そういった主体という意味で、そのあたりの各主体を一体感で集約してもよいのかどうか、それが少し気になっています。

石阪部会長：一体感というのは、結構とらえ方によっては難しい面もあって、それぞれの個性が逆に埋没するとか、それぞれ持っている良さがですね。そのようなこともあり得るので、今の話だと心の豊かさということを皆さんおっしゃったり、それから団結感やあいさつや見守り、そういったどちらかというとお金に換算出来ないようなところに価値があるというのは大塚さんも同感すると。

ただ少し懸念するのは、役所として結構数値目標を作るではないですか。その時にお金とか形にならないものを数値化出来るのか。どこで達成するかを見る時に、これどうなると思いますか。今までなら、ビルドしたものや、あるいは増やしていけば役所は頑張ったとか、成果が出たということが言えるのですが、これだと仮に出なくても、足立区は心だからだと、そんなことになっても困りますね。

おぐら委員：最近だといろいろな自治体とか国でもブータンのような幸福度、ああいうもので荒川区も打ち出していますね。そういったものは結局は一人ひとりのアンケートとかで聞いていくしかないのかなというのは確かにあると思います。それぞれ一人ひとりに聞いていくと。

石阪部会長：そうすると、生活満足度とか、幸福度を聞くしかなくなりますね。何を指標に出来ると思いますか。

福祉部高齢サービス課長：例えばですが、介護の分野で言わせていただくと、介護をこれから支えていただく側の方々も、当然高齢者の方々になってきますので、そういった方々がいろいろな団体を作るとか、そういったものの考え方もあります。自助・共助・公助という考え方の中では、NPOのような。

石阪部会長：ネットワーク市民活動がどれだけ育ってきているとかですね。

福祉部高齢サービス課長：そのような置き換えの指標が出来ていくと思っています。一般的には東京の西側の方が、世田谷とか杉並の方がNPOの数が多くて、東側は少ないと言われているのは、この心の豊かさですとかそういったものにつながってくる部分があるとは考えています。

石阪部会長：他にいかがでしょうか。こういう指標をすると、心の豊かさやつながり、ネットワーク化が見えるのでしょうか。それが難しいと思うのです。今まで区民評価等々に私がかかわってきて、評価をする時に数字が増えるということを前提に我々は見えていて、増えていないとこれはあまりきちんとやっていないのではないかと皆さんは思うわけです。今後増えるということを前提にしていない。それではなくてもよいのではないかという。増えることを目指すのではなくて、質の転換であったり、指標そのものの転換ということが大事なのだと逆に言っているように思います。今までは力強い成長ある足立ということがあったとしたら、それは増やすことが目的ですね。いろいろな意味でサービスを増やしていく、拡充していく。だから数字にも非常に見えやすかったと思うのですが。ある程度お金をかけずにとか、心豊かにというのは、むしろそれを一方で放棄するわけです。全くゼロにして、新たに自分たちにとって何が豊かなのか、何が必要なのかをもう一回見ていくという意味では、非常に大きな転換だと思います。ある意味覚悟が必要なところが、これをやるとするとあるようなところがあると思います。成長戦略に代わる何かを足立区としてやっていく必要があるだろうと。もちろん成長するところはよいです。それは豊かさとして必要なのですが。そのようなことを意識しなければいけないのだと思いました。益留さん、いかがですか。

益留委員：私が感じたのは、今まで力強い足立というのを掲げて、力を付けたとは思

うのですが、その付けた力を今後は使い方を工夫していく時期かなというのは感じています。区民一人ひとりが足立区が力が付いたなと感じなければ、力が付いたとは言えないのではないかなと思っていて。区民に還元していく意思が分かる理念を掲げるのが大事だと思いました。

もう一つは、だからといって成長を忘れてはいけないかなと思っていて。ここに書いてある一体感というものは、もともと持っている一体感から更に足立区はこれを推す。足立区と言えばこれ、のような、区民も区民以外の外の人たちも、足立区と言えばこれだよなと思えるようなものが一つあって、それを区民のみんなが好きになるとか、私たちはこれが大好きだと思えるようなものがあっての一体感というのは、理念として掲げてよいのではないかなと思いました。

石阪部会長：結局成長を単に放棄するという意味ではなくて、伸びているところはおそらく一つベクトルの向きが変わるということが一つと、もう一つはそれぞれが今まで力強さを身に付けたものを、むしろ発展的に形にしていくということが大事だと。それはそうだと思います。ベクトルの方向が違ふと。だから、成長はしていくのですが、力強く例えば経済だったり、ある意味ではそのようなところに特化しないで、いろいろなものが成長していくはずなのだと。ベクトルが多様化していくのだと。更に言えば、今まで身に付けた皆さんの活動・ノウハウ。こういったものを社会の中に還元していく。益留さんは若いですから、若者の立場としては、成長を一方的に放棄したまちでは住みたくないですよ。心豊かということのカモフラージュにあって、何か成長そのものをあきらめてしまったまちって、魅力はないと思います。やはり今ガンガン成長している。若者の住みたいまちランキングが出てくるところは、常にまちが成長しているところです。武蔵小杉しかり、吉祥寺もそうですが、北千住も20位以内に入ってきていますし、あそこもなぜ魅力を持ったかという成長しているからですよ。だからそのあたりをやはり成長放棄したわけではない。だけれども、力強さだけでは駄目なのだということが、この基本理念の中に入らないと、多分若者からすると地味なソフトランディングしていくというような。今まではワーストと飛行機が飛び立ったのに、安定期に入ってからそこからどンドン着陸に向かうようなまちは嫌ですよ。だから、おそらく世代によってかなり違うと思います。

これどうでしょうか。こういった意見があるのですが、心豊かなとかそれだけでは。

たがた委員：確かに心豊かだけだと、豊かは豊かでよいのですが、果たしてこれが伸びていくのかなという部分は確かに考えられるし。そう考えると、逆にむしろ若者から見れば活気あふれたといったような。

石阪部会長：多分若い人からすると、そっちの方がストーンと落ちますね。これからのまちはどうするって言えば、それは活気あふれる、みんな人がわんさか来て。

たがた委員：世代間によって違うので、それを全体的に網羅出来るものを一つ考えないといけません。

石阪部会長：だから前は基本理念は一つでしたけど、その前の平成4年に作った基本理念は三つありました。一つ目が人間性を尊重する。二つ目が地域からの発想を活かす。三つ目がともに支える社会を育む。おそらくですが、今回は何も一つに絞り込む必要はなくて、もっと言えば相反するとは思わないですが、一つは成長・活力・魅力が非常に伝わるような、つまり外に向けて強い足立を表現するという、そのようなメッセージ性は大事だと思います。反面、ただ足立の良さ、魅力というのは、必ずしも経済とかそのようなものだけではないのだと。人の優しさや温かさ、ぬくもりや豊かさ。心。こういったものを大事にして、そして楽しく暮らせるまちなのだということで、私は二本立てで伝えていった方がバランスが取れてよいのではないかと思います。ですがいかがでしょうか。

益留委員：私もそれを感じていて、二つ今お話をしたのですが。若者からするとこれから何もしていく予定はないのかと。これから何か足立区でいろいろ若者が参加しやすいようなイベントが起こるとか、これからは成長していくのだなという見込みがあるというのは、やはり魅力的だなとは感じます。

石阪部会長：おそらく区内にも大学生がいっぱい入ってくるようになって、そのような意味では活気があって、みんなでいろいろなことが出来るようなまちというイメージなので、それは非常に大事だと思います。

さて、ここまで皆さんのご意見を伺うと、年配向きと若者向けに分けるわけではないですが、ある程度見えてきましたね。一つはやはり心が大事。お金に代わる何か別のもの。それが何か一体感とか心の豊かさなのか分かりませんが、とにかくお金に代わる何かの価値観がこれから大事になっていく。特に足立は、今まで成長で頑張ってきたけれども、ある意味では一段落して転換期を迎えているというのは皆さん共有していると思います。おそらく今後お金がなくなっていくのは日本全国そうですが、ただ反面その中でも足立の魅力や良さ、あるいは活力というものを特に外向けにアピールして、若い人たちが入ってくるような魅力を持ち得たまちでなければいけない。そうなった時に、先ほど言った経済ではないのですよね、今の若者の思いというのは、単に会社がいっぱいあって、東京で言う丸の内のようなあんな感じになって、勝手にいろいろな人が入ってきてお金を落としていくというだけではなくて、私の中では交流とか、一緒に何かが出来るとなるとそのようなイメージがしたのですが、その辺はいかがでしょう。単に大企業が林立するまちということではないですよね。

益留委員：ではなくて、例えば学校の帰りにここに寄って帰ろうとか、ここで遊んで帰ろうとか、もう少しここにみんなでたむろでもないですが、話して帰ろうかなとか、もう少し学校の近くにあって寄って帰ろうと思える場所があるとよいなということ

です。

石阪部会長：そうすると交流とか、それから連携・連帯感とか、それからある意味で一緒に何かが出来、みんなで集えるといったイメージですね。これも必ずしも経済的な側面ではないような気がします。だから、何か皆さんの話で一つ共通したのはそこなのかなと。みんなが集まったり交流したり、あるいは新たな関係を構築することによって、経済的な価値に代わる何か別の新しい心の豊かさのようなもの。これがおそらく生まれ、それがまちの魅力、ある意味では足立区の個性につながるのだというところでしょうか。

衰退期に入っていると捉えられても困るし、よくありますよね。心の豊かさと言うところもありますが、足立はそうではないと。成長しながら心の豊かさをそれぞれ確認していく、そんなイメージでなければ、若い人から見ると魅力がなくなるということかもしれません。どんなふうにまとまりましたか。

地域計画連合：今の言葉を拾ってみました。まず、これまでは協働、力強い、が掲げられていました。いろいろな意味でこれはもう三角だろうと。次のステージに皆さん進もうとされている。事務局案が出した一体感。これは誤解を受けるのではないかと。皆さんの中でも問題を感じていらっしゃる。次に新しく出てきたのがまずこの心の豊かさ。新しい価値観として、心の豊かさで打って出るのはいかがでしょうかというのがありました。今益留さんからもありましたが、それだけではなくて、新しい何か、ただ落ち着きのイメージだけではなくて、成長を感じるような何かということで、例えば出していたいただいた言葉を拾ってきますと、活気・爆発・魅力。あとは心の豊かさプラス、連帯・交流・集う・福祉など。それからプラスアルファの何かを付け加えて、足立区の魅力を作っていくようなキーワードが出されていたと思います。

石阪部会長：そうですね。ということになってきました。何かまとまってきましたね。まさにここですね。心の豊かさは非常に大事。これが健康にもつながるし、ある意味では、会社なり働く場所がきちんとあって心が豊かになるわけで、必ずしも経済的なものを完全に否定するわけではもちろんないのですが、ただ豊かさの一つは指標として、心の豊かさは大事だと。ただ、隣の荒川区でやっている幸福度がよいのかどうかは別です。あれは結構賛否があって、私も実際に相談もされました。足立は別のやり方でよいと思うのですが、何か心が豊かになる、そのためのいろいろな条件づくりをやっていく必要があるのではないかと。そのためには健康が大事だと、経済も大事だと。それから福祉も必要になってくる。

その時の一つの方向性としては、単に経済的なものを放棄するという意味ではなく、活気あふれる、魅力、そして連帯感・交流・集い。こういったある意味では今までなかった価値観。新しい価値観を加えることによって、心の豊かさを補完するようなそのようなものが基本理念としては大事なのではないかとという気がします。

皆さんとしていかがでしょうか。心の豊かさを感じる時というのは。心の豊かさ

いうのは結構難しいですね。

馬場委員：確かに先ほどあったように、達成度が測れるのかと。心の豊かさというのは、やはり区民一人ひとりが豊かに思っているかどうかでしょうか。一人ひとり聞くのも大変な作業なのですが、一つの指標としては、例えば足立祭りとか、地域のお祭りとか、地域の住区センターのお祭りとか、お祭りに参加する人が年々増えていけば、多分地域の人々が満足している結果として、地域の祭りに参加する人が増えるだろうというのの一つ。

石阪部会長：指標としてですね。例えば地域の祭りへの参加者数。それは一つありますね。

馬場委員：それと心豊かに楽しく暮らせるということは非常に抽象的な表現ですが、例えば足立区の真ん中、西新井に足立工業高校というところがあるのですが、その校長が以前言っていたのですが、おかげさまで卒業生、全員就職が決まりましたと。これも、若者に関しての一つの指標ではないかと思います。あとは指標となると、例えば会社に就職した人が結構すぐ辞めることがあって。

石阪部会長：離職率などですね。

馬場委員：例えば3年間継続して働いている人がこれだけ増えてきました。5年間、10年間継続して力強く若者が社会に飛び立っていき、自力で生活していくということなど。一発でよい会社に巡り会えればそれでよいのですが、しかし別の会社でもしっかりと働いているという、それを数値化すれば一つの豊かさになると思います。

石阪部会長：それこそ学校って今までどのようにしていたのかというと、〇〇大学に何名といったようなことなどですね。よりランクの高いところに何名入れるかというのは、これは成長戦略なのです。そうではなく、その人の幸せというのは〇〇大学に入ることではなくて、指標そのものが間違っていると。これからの足立で言えば、よい大学に入れることが目的なのではなくて、その人が例えば大学に入って本当に自分のやりたいことが出来ているのか、幸せなのかどうかを測るという意味で言うと、先ほど言ったような例えば退学者がどれぐらいいるのかなど、本来そっちを調べるべきであって。それから、先ほどおっしゃったように希望の仕事に就けているとか。例えば辞めた子が自分の仕事に就いた再就職率など、そんなことが大事になってくるといことですね。今までの成長一辺倒の指標ではなくて、いったん駄目になった人が再チャレンジ出来る社会とか、ランクを上を上げていくのではなくて、自分自身が豊かだと思えるような環境にいかに行くことが出来るのかという指標づくりのようなものが必要になってくるので、指標化が難しいですね。

馬場委員：あともう一つ。例えば地域のお祭り、盆踊りでもよいのですが、やはり皆さん住民の寄付で成り立っているわけです。その盆踊りの寄付金も、当然参加者が増えれば盛り上がってきたと思えば、俺も出そう、私も出そう、商店街でも出そうというのは一つの指標になります。あとは学校の周年行事をやるのに、卒業生に寄付を募った時に、前回の40周年より50周年の方が集まれば、学校に誇りを持っている人が増えたのかなと。地域と卒業生とのつながりがしっかりとしてきているのかな。

足立区版にすると、例えば足立区というのは、お話が出ていた通り生活しやすいまちなので、結婚して子どもが小さいうちは足立区に住むけれども、旦那さんが出世するともっとよい住宅に住みたいとか、結構そのような方がいます。ただ、足立区から離れた人も、足立区の良さというのは当然染み付いていると思います。仮に20年たって足立区を振り返って、おかげさまで自分は社長になったというような方が足立区に寄付をしようとか、そんな寄付の金額が伸びていけば、その増え具合で足立区は育ててくれたよい場所だったと。暮らしやすかったと。足立区で子育てが出来たことを誇りに思っていると自分がそれなりの収入を得た場合には、足立区に例えば総合病院を誘致しますのでぜひ皆様の寄付をと訴えた時に、それなりに集まるような形がやはり足立区を良かった、誇りに思えるという結果、数値化される一つのバロメーターだと思います。では高度な医療の病院誘致のためにお金が必要なのかなとか、あとは子育て施設がまだまだ足りないのというようなところの寄付を求めた時に、やはりしっかりと集められるようなところが、足立区内の人はもちろん寄付を出しても当然よいのですが、集まるような流れというのは、自分の住んでいるところを誇りに思っ

石阪部会長：まさにそうですね。寄付の金額はもちろんなのですが、件数ですね。本当に少しでもよいから何かしたいと。そのような人たちが増えてくることが大事で。祭りでもそうですね。よく寄付なんていうと、大きな企業がドーンと出して、金額だけ異様に高いのですが、件数を見ると本当に普通の方まで寄付が出来るような、強制ではなくてですね。

馬場委員：足立区は福島や新潟をふるさとに持っている人が多いのですが、例えば新潟で地震があった時に街頭で募金すると、大変多くの方が募金に参加してくれます。中学生や小学生も、お父さんが新潟出身とか、そのような交流がしっかりと出来ているところなので、その小さな寄付金にしてもそうですね。誰かが病気になって、移植が必要だとなったら、寄付が集まるようなところが心の豊かさの指標の一つになると思います。

石阪部会長：心の豊かさという、この表現は面白いと思います、自治体が使うという点でも。これについて例えば思い当たる今のような、こんなところが実は足立の心の豊かさだというのはありますか。意外に分かりにくいところですね。

小久保委員：これは年代とか生活の環境・状態だとか、いろいろ違ってくると思います。今私の気持ちで言うと、ほどほどに経済的に豊かだったら、豊かかなとも思いますし。それから、悩みがなくて静かな時が持てる、そのような時は心が豊かな感じがします。それと、あとは自分のことですが、趣味などでこれからまだ大会があって発表会があるのですが、そのようなところでそこそこ出来たかなとか、そのようなことが出来た時と言うか、終わった時と言うか、そのような時が心の豊かさに通じるのではないかと思います。他のことでも求めようと思えば、結構細かくてきりがないので。大体その三つぐらいが自分にあれば、その表現はよいのではないかと思います。

石阪部会長：一つ心の豊かさで引っ掛かるのは、足立区というのは今貧困対策をやっていますよね。いわゆる心の豊かさというのは、まずは食べることが出来て初めて次のプロセスに行くのだと考える人にとっては、足立は何を言っているのだと。まだそこまで行っていないだろうという。そこまで本当に成熟しているのかという批判は対外的に出る可能性もありますよね。例えば子ども部会などでは、貧困にあえぐ子どもやシングルマザーがいるとすると、その人たちをどのようにして救済するかという、そうなってくるとまずは心よりも最低限の生活を保障するとか、そのようなことを言い出し始めると、心の豊かさってまだまだ遠い先なのかなという批判までは行かないですが、邪推をどなたかがする可能性がある。その時にそれでも心の豊かさが大事だと私は思います。食べることが出来なくても、心が豊かであるということは非常に大事だと思うのですが。

小久保委員：目指す先は10年、20年、30年先ですよ。

石阪部会長：何よりも目先の食べることはもちろん大事です。だから、多分この例えば貧困などを扱っている部会からすると、例えば力強く生きるとかたくましく生きるというのが絶対出てくると思います。ぶつかると思います、全体会で。全然こちらの部会と違うところが出てくる。そうなった時に、むしろそれも含む豊かさ。つまり心が豊かになるためには、食べることが最低限出来て、学ぶことも出来て、将来に向けた希望も見えて、そうして初めて心が豊かになるのだと。だから、そのようなことも含む概念なのだというところをある程度言わないと、そこがいきなり飛んだと、階段を一つ飛びのようなことになりかねないので、今のお話はまさにそうで、日頃心豊かだと思っている瞬間というのは、世代とか階層などによってかなり違うと思います。その辺をやはり配慮してあげなければいけないと思います。いろいろな人がいる足立であると。その豊かさというのは人によって違うということですね。鈴木さん、いかがですか。

鈴木委員：心の豊かさというのは非常にばらつきがある、それは感じます。やはり貧困層と言うか、そのような人たちのレベルから言うと、日々生活していくのが精いっぱい。心のゆとりなど持てない状況だと思います。そういった時に、仲間同士のコミ

コミュニケーションとか、そういったことがある程度関係してくるのではないかと思います。駄目でも何とかこれでやっていこうよという連帯感のようなものがあると、それが心のある意味豊かさになるのかなという感じがしないでもないです。

石阪部会長：お金をかけなくても、みんながつながって厳しさを乗り越えていくというところが、むしろ心の豊かさであって、つまりどういったことかという、単に所得補償をしてあげて、最低限の食べる分だけを国や自治体が出すというのではなくて、みんなと一緒に考えて、みんなでどのようにすれば豊かになれるのか。食べていけるのかを考えるプロセスが大事だと思います。だから、これは決して矛盾するのではなくて、貧困層を無視しているとか、一つ飛びであるということではないという。心の豊かさを考えた時に、今までのような貧困対策でよいのかどうか。これはもう一回考え直すきっかけになると思います。今までの貧困対策というのは、ほとんど福祉ですね。給付をするということではない形も足立区として考えていく必要があると思います。行政としていかがですか。

福祉部高齢サービス課長　今ご議論いただいている心の豊かさというのは、それぞれの対象の方の取り方が違うと思います。お金を持っていれば心が豊かかと言えばそうではなく、貧しいから心が貧しいかと言えばそうではないので、10年後、20年後、30年後を考えていく上では、成熟した都市を目指すという中には、活力ある都市という部分でもありますので、非常によい表現だと思います。

石阪部会長：そのような誤解はないだろうということですね。大塚さんはどのように思いますか。

大塚委員：一つは経済的な豊かさよりも心の豊かさということではなくて、並列的に表現すれば少しはその点は。

石阪部会長：赤字で書いてある経済的な豊かさよりも心の豊かさを得ることが出来るという、ここが少し強すぎると。経済的な豊かさに加えとか、共にとか。この辺微妙ですね。この表現は、経済的な豊かさはもちろんのこととか。いかがでしょう。

おぐら委員：平成16年の基本構想を見ますと、議論になっているところは併記していますね。基本理念が、さまざまな区民・団体・企業・区役所などが協働して、住み働き学び活動する力強い足立を目指しますと書いて、その下に三つの基本的方向と書いて、1番目が創業や開業による地域経済の活性化を目指しますと経済に触れて、2番目に人間の安全保障を進め、安全・安心な社会の確立を目指しますと、それは治安対策なども絡んでいることだと思います。そして3番目が、文化と教育を高め、心の豊かさと誇りの持てる未来を目指しますとあって、うまく全部カバーしていますね。そうすると、これからの時代に合わせたいろいろな方向性をよりブラッシュアップし

ていければよいのかなと思います。

石阪部会長：ですからそのような意味では、もちろん経済的な豊かさでも大事ですから、これで言うと、よりも、と言うとかなりきついですし。おそらく他の部会などでは、経済的にと露骨には出てこないとは思いますが、例えばいろいろな意味での成長・発展ということを言ってくると思います。まちづくりでもそうですし、子どものところも出てくるかもしれません。そう考えてみると、ここでは、どちらかというとお金をかけずに心豊かに楽しく暮らせるというのは、経済的豊かさを無視していると言うよりは、何かお金がかからなくても何か出来る方法をみんなで探していこうと。ただ、表現は少し変えましょうか。誤解を生むかもしれないですからね。メインのタイトルはともかくとして、下の説明のところが例えば経済的な豊かさよりもというところを切ってもよいですよ。互いに認め合い支え合いながら心の豊かさを追い求めるということですよと思います。

上にお金をかけずと書いたので、経済的な指標よりもこうした心の豊かさを重視することは伝わると思います。益留さんいかがでしょうか。20代からすると古くさいですか。

益留委員：心の豊かさというのは私も非常に必要だと思っています。若者も必要だと思っています。例えば、足立区が貧困層を救う意味で何かこのような政策をしますとなった時に、出来るのか分からないのですが、先ほどおっしゃっていた寄付金を募るという。そこで寄付金がたくさん集まるような地域をこれから作っていったら、足立区が寄付金を集めて貧困層向けに還元するという流れ、仕組みというものを。

石阪部会長：寄付金というのはふるさと納税的な意味合いですか。

益留委員：それもあります。

石阪部会長：寄付と言うと、普通イメージするのは団体とかNPOとかそのようなところへの寄付ですが。

益留委員：足立区のためになるならという意味でもよいと思うのですが、貧困層の人たちを助ける政策に何か寄付金が集まって、寄付金ではなくても実際に行動してやるとかでもよいですが。そのような仕組みが出来上がるのを手伝っていくのがこれから必要だなと思います。そのような意味で、心の豊かさというのは、経済的にも豊かである人たちが心の豊かさを持って経済的に貧困層の人たちに何か出来ることがあるかなと考える心の豊かさがこれから必要だと思います。

石阪部会長：つまり、周りの人たちのことも考えられるような心の余裕と言うか、あるいは思考を持つことが大事だということですね。

益留委員：区が良ければよいとかではなくて、区だけを見ているのではなくて、区民、自分の周りの人たちも見えて行動出来るような。

石阪部会長：今寄付の状況って、市民活動とかありますか。団体とか。足立区にそのような事例はありますか。

福祉部福祉管理課長：福祉部だけで申し上げますと、福祉の施設を建設する。例えば特別養護老人ホームですとか、障がい者の施設といったところで、もちろん区も国からのお金ももらいますし、区からも補助を出しますが、それに対して足立区に住んでいるからとか、ご年配の方が万が一のことがあった時に私の持っている財産を足立区に残しますというご寄付もいただいています。年間1,000万を超えることもありますし、100万ぐらいの年もあります。

石阪部会長：特に福祉施設を建てる時の寄付ですね。あとは例えば市民活動はいかがですか。

地域のちから推進部地域調整課長：NPO活動に関しての寄付は毎年あります。毎年何百万と。それと、今出たような遺産相続の時にまとめて寄付をいただいたこともあります。それは1,000万を超えていました。

石阪部会長：目的に特化して寄付されるということですね。東京はふるさと納税はないですね。あるのですか。足立区としてやっているのですか。東京都としてですか。区としてやっていますか。

地域のちから推進部地域調整課長：ふるさと納税はどこでも出来ますので足立区でもあります。

石阪部会長：お礼は何ですか。

地域のちから推進部地域調整課長：確かバッジと盾ぐらいではないでしょうか。

福祉部福祉管理課長：この間決算特別委員会の先生方で、そこでも同じような質疑がありました。特に福祉施設は毎年毎年同じ方が、金額が少なくても1万円ずつくださる方もいらっしゃいます。先生方の方からも、ピンバッジをずっともらうのはどうかなということで、今検討を始めていると伺っています。企業からうちの企業が儲かっている限り、100万円あげますということを聞いていますので、そのような継続的に実施している企業もいらっしゃいます。

石阪部会長：今はどちらかというとふるさと納税そのものは返礼品が豪華になって問題になっているという意味では、堅実な足立区をイメージさせますが、ちょっとバッジというのは、それはそれで検討していただけたらと思います。そういったもので足立ファンが外に出来ると、いろいろなところから寄付や納税があるだろうと思います。心の豊かさから発展していくと、そのようなところまでつながっていくだろうという感じです。

あとはいかがでしょう。例えば心の豊かさのところで。この豊かさの具体的なイメージというのは、なかなか難しいと思うのですが。例えば先ほど文化の話がありましたね。心というのはそれを形にしたのが一つの文化だとすると、足立区の文化行政というのはどうなのでしょう。

地域のちから推進部地域文化課長：先ほどからお話を聞いていて、心の豊かさというのは、個人的ですがやはり価値観だとか充足感ではないかと思います。つまり、個々の方々がどこに重きを置いているか、これによってだいぶとらえ方が違ってくると思います。

文化の面で、例えば私どもでは、北千住駅前、ご存じの丸井の上にシアター1010という施設を作っております。ここは発信をして、今だいぶ日本全国からお客さんが見えるようになっているのですが、悲しいことに足立区の中でいまだに、10年たって見たことも行ったこともないというお声も聞いております。従ってやはり施設を持っているから文化が高いということではなくて、やはり個々の方々の趣。ここにやはり文化行政の難しさがあると思います。

あとは経験から言わせていただくと、やはり子育てのある世代になると、それが保育園・幼稚園・小学校・中学校。また、今言った施設は、やはり地域との連携を模索していますので、必ず地域にもお声がけをする。ただ、これが高校になりますと、東京都の学校という位置付けになりますので、高校からはある部分地域とは離れていってしまう。従ってやはり中学を卒業すると、地域とのつながりということがかなり親子共薄れていくのかなと。ですから、そこで地域で何かお祭りだとか取り組みをやっている時にうまく連携を図っていければ、地域への目が向くというのは一つあるかなと思います。

石阪部会長：高校生になると手に負えなくなるわけですね。都立や私立ということで。そのような意味では、先ほど言った文化というのも、施設がすごくたくさんある自治体はありますが、そこが文化的に皆さんに成熟しているかというと、必ずしもイコールではないと思います。施設なんていうのはお金があるところでは結構建てていますが、では利用者を見ると年々減っているところも多いので、一つの今の文化のとらえ方としては、地域の文化とかコミュニティ文化。先ほどのお祭りもそうですし。それから、地域の中で創れるような文化もありますね。例えばうちは昨日、地域の中でハロウィンの仮装行列をやって、地域のお年寄りの家にも、あらかじめお菓子は渡してもらおうように仕込んでおくのですが、日頃一人暮らしの高齢者の家に子どもたち

がワープと行って、お菓子をもらおうと。そこで心の交流が生まれるというような、これもある種の文化と言えど文化で、これを子ども会とかが仕掛けて、地域の人を巻き込んでやっているわけです。だから何も東京芸大が入ってきて、高尚な文化が一方であって、文化で売りたいという気持ちは分からないでもないのですが、反面でそういった地域に根付いたネットワークから生まれる、その土地土地の文化というのが、今やはり廃れている気がするので、その辺の心の豊かさを一つのキーワードにして、新たなものを作っていく必要があると思います。

文化と言っても広いですから、よく文化力という言葉は行政は使いますが、これも自治体によって全く違いますからね。ですから、そのような意味では、心の豊かさから生まれる地域の文化力と言うのでしょうか。こういったものを培っていくようなことも必要ではないかと思います。

あとはいかがでしょうか。心の豊かさが大事な政策・キーワード。例えばまちづくりでも。今回の分野で言うと、まずはここで担当すべきことは、コミュニティはもちろんずっとやってきましたが、例えば治安・マナー・モラル、この辺をちょっと皆さんいかが思われますか。足立区は良くなってきていますね、数字上は。かなり犯罪発生件数などはワーストを抜けたということですし、良くなっていると。ただ、基本は治安を良くするためには、単に罰則を強化するだけではなくて、一方でこういった地域の方々のネットワークであったり、そのようなものも大事だと。ここからつながってきますか。いかがでしょうか。心の豊かさと治安とかというのはつながるのでしょうか。

鈴木さん、いかがでしょうか。皆さんのワークショップなどを見ると、マナーを守って犯罪が少なく住みやすいまちを作る必要があるという意見ですが。

鈴木委員：心の豊かさというテーマの中で少し考えたのは、お年寄りと言うか、地域の人たちの知恵を使ってよいのではないかという感じがします。ですから、交番制のようなものがあって、地域の治安などを助けることがありましたが、そのような交番制もだんだん薄れてきて、地域をきちんと見守る団体がないと言うか、そのような場があるとよいなと。

石阪部会長：見守りの団体であったり、あとは居場所のようなものでしょうか。そのようなものをコアに作っていく。直接的な支援ももちろん大事ですが、そうではないそういったネットワークを作れるような支援とか。

鈴木委員：お年寄りが注意をされるとの扱いにされたりしますので。

石阪部会長：それからあとは世代を超えた地域での交流行事とか、そのようなものを増やしていったら、高齢の方と子育て世代が交流出来るような仕組みや仕掛けを作るとか。まさにコミュニティのところではそのようなものもありますし。一人暮らしの高齢者がやはりいらっしゃるの、そういった人たちのつながりづくりというのを、孤

立ゼロではそのようなところまでやっているのでしたか、そうでしたね。

地域のちから推進部絆づくり担当課長：孤立ゼロで今やっているのは、高齢者の疾病調査はもちろんやっているのですが、それを契機に地域の方に気付いていただいて、その後の支援も一緒に取り組んでいただこうというようなところですので、調査が終わったところから順次そのような集まりを増やして行って、活動をしてくださる方を増やして行って、その方たちの活動の中でそのような居場所的なものも作っていきたい、広げていきたいということで取り組んでいます。

石阪部会長：これ物理的にかなり人数がいると思うのですが、すべてのエリアで出来るのでしょうか。

地域のちから推進部絆づくり担当課長：そのために地域包括支援センターが 25 か所ありますので、そこに人を付けています。当然我々行政がそこで地域の方と包括をつなぐ役割と言うか、そこは行政でやれることであると思います。そういった成功した事例を次に取り組むというところで、地道にコツコツになりますが、継続してやっていかないとなかなかつながっていかないと思います。

石阪部会長：他にいかがでしょうか。治安はもちろんそうですし、あとは商店街がなくなりつつあるので、どうにかならないかという意見がありますが。これも心の豊かさに持っていけますか。経済の部分になるでしょうか。治安やマナーは行けると思います。地域の中でも見守りをネットワーク化して行って、こまめにいろいろな人たちがかわるとか。皆さん、登下校の時には今も立っていますよね。そのようなことをやっていただくとか、安全につながるような、未然に防ぐような仕掛けというのもおそらく出てくると思いますが。この辺は比較的これで行けるかなという気がしたのですが。少し経済部分が、産業経済がここは入っていますし、それから農業も入るので、ここは。消費とか農業とか雇用。あとは中小企業支援ということになってくると、なかなか説明しづらいですね。だからこの言葉だけですべてを説明するのはやはり難しく、心の豊かさプラス何かですね。

ですから、先ほど言ったように、一方では、先ほど益留さんがおっしゃってくれたように、成長とか魅力とか活力というものも足立区には大事かもしれないですね。その辺を二本柱にしていくのか、それとも心の豊かさにかかわるものを表に出して、その下に先ほどみたいに三つ並べていくようなやり方がよいのかもしれないですね。我々のグループとしてはそんな感じかもしれません。

それから、あとは健康とか医療についての課題はいかがでしょうか。例えば今日は須藤医師会会長がいらしていませんが、医療の面などでも須藤会長からいろいろいただいていますし、これは何かつながりそうですね。買い物難民対策であったり、あとは医療の面でもなかなか予防医療とか、そのような観点からすると、やはり地域のネットワークで日頃から健康づくりに地域の中で頑張ってもらおうという姿勢も大事だ

という気がします。つまり対症療法ではなくて、どちらかというともみんなそれぞれの地域やそれぞれのグループや個人が、自分の中である意味で管理して、自主的にいろいろな取り組みに参加出来るような仕組みがもし出来るとすると非常によいと思います。対症療法でも病気になったから入院しますとか、そうなってくるとこちらのベクトルとは真逆になると。その辺がここで共有出来ていればよいと思います。

それから、あとは中高生の意見などを見ていくと、どうでしょうか。若い世代、それからあとは子育て世代ですね。この辺はいかがですか。足立区としてはかなり力を入れているところではありますし。他の自治体などに行くと、子どもが3人生まれたら、3人目から給付を出すという自治体もありますが。足立区はどうなんでしょう。そのような対症療法的な人口増加対策をやっているのかが分らないですが。いずれにしてもだからそうではなくて、足立区が子どもを産みやすい、子どもを育てやすいというのは、結局このネットワークがしっかりしているところに実は足立区の良さがあるのだと。たくさんのお金をくれるから、祝い金をくれるから私は足立に住んでいるのではないというような、ある意味では、プライドを持つ必要があると思います。本当にある地方に行くと、お金を何十万もくれるところがあります。あれをやると足立区は駄目だと思います。そうではないやり方で、そのような意味ではお金とか経済の問題ではなくて、お金はかからなくても子どもを育てやすいとか、お金がかからなくても地域で暮らしやすいとか、こういうまちを足立区は目指すべきだということでしょうか。

それから最後の議論になりますが、一体感ですが、これは先ほど賛否があると申し上げましたが、やはり足立区としてのPR、外向けのPRが大事だと思います。シンボリックなもの。つまり、足立区というのはネガティブなイメージを持ちがちで、皆さん自虐的に笑ってしまうぐらいですから、いけないということですよね、実際には。だけど住んでみると意外といけるのだと。つまり中の人と外の人ではかなり温度差がある。そのような意味では、足立区の負のイメージやマイナスイメージを払拭するための仕組み・仕掛けが必要になってきて、そのために心の豊かさでよいのかどうか。足立区は心豊かになれるということが、メッセージ性として外の人に伝わるのかどうか。例えば住みたいと思う、魅力的なまちだと思うのか。

別の言い方をすると、どんなまちが魅力的だと思うのか。例えば今東京都内にあるまちでどこら辺が若い人にとっては。

益留委員：先ほどからもいくつか挙がっているのですが、これから何か新しいものが出来上がっていくんだよという。

石阪部会長：成長が感じられるという。どうしてもやはりそうなりますね。

益留委員：そうですね。ここはこれからこう変わるんだよというのがあるというニュアンスがあると、少し目を引いたりしますし。

石阪部会長：おそらく足立区でも今度花畑に文教大学が来ますと言えはすごいなと。

益留委員：大学の友達もみんな、あ、そうなんだ。大学が増えるんだ、といったようなところがあるので。

石阪部会長：北千住でもそうですね。こんなお店が出来るとか、こんなものが新しく出来ると、ああ、少し行ってみたいということになると。だから、そうやってきた時に、例えば単純にお店が増えたらよいとか、そのような問題でもないですよ。大学があるからそこに行くということではなくて、では、まちとしての魅力はどこにあるのかと見た時に、単に娯楽施設があるからそのまちは魅力的ということではないという気がします。おそらく足立区の取る路線というのはそちらですよ。大きなビルをいっぱい建てるとか、新たなものをどんどん誘致して、空いているところを近代的な未来都市にするということではなくて、例えば古いものの良さであったり、あるいはつながりだったり、そんなものを大事にしますと。つまり、新しいものを建てるだけではなくて、それを維持して守ることの大事さを伝えていくのだと。だから、おそらく今学生としてかかわるまちというのと、それからここに住んだ時に、ああ住みやすいなと思うまちって多分違うと思います。例えば、今武蔵小杉などはすごいビルが建っていますが、では、あそこが住むまちとして見た場合にはどうか、そのようなこともあると思います。だから足立区の目指すまちってそちらかもしれません。成長するまちはあってよいですが、反面全体にトータルなまちとしても、古いものを大事にするとか、人と人とのつながりや助け合いを大事にするまちとか。ここに魅力があるのだということをプライドを持って果たして区民が外に発信出来るのかだと私は思います。

やはり本当は成長が良かったのだと。どんどんいろいろな企業やお店を誘致して、元気になった方が良かったのだと心のどこかで思っていると、多分これは腰砕けになると思います。

たがた委員：全体的に心の豊かさと聞くと、いろいろな議論がありますが、例えば第三者が心の豊かさという、癒やし系な言葉としてキーワードになって、ただ心の豊かさというのは、これから大事なことで、どちらかというと現在からやはり未来形で、やはり先ほど言ったようにパンチがある言葉がないと、癒やし系とパンチの言葉のような形でくっつけると。

石阪部会長：真逆ですね、癒やしとパンチというのは。

たがた委員：心の豊かさも大事だし、あとは活気あふれるとか、爆発的とか、魅力といったようなですね。

石阪部会長：強いメッセージ性ですね。外に向けては私も言わなきゃいけないと思い

ます。足立区の皆さんは良さが分かっているわけです。これを大事にしたいとみんな思っているのですが、対外的なイメージをもし挙げろとなった時に、少しインパクトが弱いなと正直思っていて。それならば、自虐に行くしかないです。意外といけるとか、お金をかけなくても豊かだとか。そこまで何でも徹底しないと駄目なのか、もしくは今言ったように外に向けたメッセージとしてはもっと爆発とか、足立区大爆発といったようなこととか、それも一つの考え方ですね。

だから、今のところあえて結論としてはまとめませんが、それが両面が必要ではないかということでしょうか。

馬場委員：イメージとして出していった方がよいと思います。だから、表現として一つの言葉で伝わらないのであれば、例えばまちと心も成長する足立という形で、くっつけバージョンにしていくかですね。ですから、成長と言うか、いきいきとしたものが感じられるものを。

石阪部会長：そのような言葉を入れて、かつそこが経済的なものではなくて、心の成長とか、あるいはまちの成長ということに特化した成長だったら、それはそれで面白いですね。足立は経済的な成長よりもそちらを大事にするというメッセージは伝わります。小久保さん、いかがですか。

小久保委員：足立のイメージ、これは何かに頼らないと、誰でも知っているようなイメージにですね。今思い付いたのですが、例えば千住宿とか歴史がありますね。千住のイメージを知らない人はほとんどいないと思うのです。そのような核になるものを置いておいて、それからいろいろな文化だとか産業だとか、いろいろありますよね。ヤッチャバがあるとか、魚市場なんて 23 区の他にないぐらいの施設もあるわけですから。何かポイントを一つ作っておいて、いろいろなものがそれに派生していくって言うのかな。くっついていくって言うのですかね。そのような考え方を心の豊かさの中に持てないかなと。全体に見て、ああ、やはり足立区だなと外からも思われたいわけですね。

石阪部会長：今の話だと、何か足立区は例えば世田谷とか渋谷とか、ああいうところを目指していると思われるのが嫌なわけですね。足立区はまだ成長の過程で、おまえたち、世田谷みたいになりたいんだろ、と思われるのは嫌だと思います。そうではないと。足立は足立なのだという意味で、例えばある種のオリジナリティだったりとか、足立の良さというものは、そのようなところには何かが足立にはあるのだということですね。他のまちに向けて前に進んでいくと言うよりは、足立独自の道を歩むよと。だからよいと思います。23 区で癒やし系の区が一つぐらいあっても。癒やし系でしょうか、足立区は。どうでしょうか。癒やされますか。でも、一つぐらいこういう区があってもよいし、何か他の区と同じようなことではないという何かが必要だと思います。

心の豊かさはどうしても普通ですよ。これに代わる何か面白い言葉が出てくればよいと思うのですが、何か皆さんからありますか。先ほどの面白いですね。心の成長とか。

馬場委員：まちも心も成長型ですね。

石阪部会長：前回の成長というのを必ず否定しているわけではなく、前回は力強い足立区を作っていこうとしましたから、そうではなくて、一見癒やしで力強い成長から力強くない成長に行くという不思議な形ですが、ベクトルが変わるという意味が伝われば面白いですね。他にいかがでしょうか。もしくはっつけバージョンで行くならば、もっと強い面白い言葉でない駄目だと思います。二つに分けるのであれば、一つはこのような表現で、もう一つにインパクトがある外向けの一つのメッセージ性が必要になると思います。

個人的にはお金をかけずに心豊かに暮らせるまちは好きです。非常に足立区らしいなという感じがして。多分他のまちでこれを書けるところはないと思います。こんなことを基本構想に入れるのかと。非常に貧乏くさくないのかという話から、ああ、足立か、やはり、となると思います。それが逆に足立の良さだと思います。ただ、全員がこれに賛同してくれるかどうか分かりませんが、これに類するような、お金に代わる何か。例えばここで言うと、心の豊かさというのはそのようなことを言いたいわけですから。その辺が伝わるようなことで。

あらかじめ断っておきたいのは、多分今日結論は出ないと思います。本当は1本、2本と出てしまえばよいのですが、難しい場合にはひょっとすると文言の修正等々も含めて、全体会で報告する上で必要なことがありますね。取りまとめといったものですが、最終的には申し訳ないのですが、私に一任ということでご了解をいただいてよろしいですか。皆さんの意見を踏まえてもし修正となった場合は、全体会の時にやるということで。時間があと10分ぐらいですので、そこで作ればよいですが、そのようなことでよろしいでしょうか。最後取りまとめをする段階で、私の方でチェックをさせていただきます。皆さんについては、部会からの意見ということで出させていただきますが、もちろん修正等については全体会でご意見をいただくと。部会としての取りまとめは今日出来ればよいですが、何とかあります。厳しいですか。

鈴木委員：豊かさという言葉に代わるかどうか分からないのですが、先ほどネットワークという言葉が出てきたので、心のネットワークということで。

石阪部会長：そんな事業がありそうですね、福祉分野で。でも面白いですね。確かにネットワークという言葉はよく使われますね。あとはいかがでしょう。キーワードのようなものがあれば。今のところ考えているのは、先ほど馬場さんにおっしゃっていただいたように、一本化してしまうのか、外向けのインパクトという意味で先ほど言った心の豊かさのようなものにするのか。それから二本立てにして、一つはどちらか

というとお金はかからないけれども心豊かな地域やまちがあると。そのような意味で豊かになるという視点と、もう一つは外向けに、足立区は活力があるなど。どんどん成長していくなど。その成長の仕方というのは今までのイメージとは違うけれども、とにかく見ていてくれ、といったような、そういったメッセージ性があるものと二本立てというものと。おそらくこれはまた全体会に行った時にいろいろ議論が出てくると思います。もし、くっつけられないなら2本にさせていただこうと。次の12月2日に、こうなったのかというのを見ていただければと思いますし、これは少し違うなと思ったら、そこでまた改めて修正をいただければと思います。他にキーワードとしてありますか。

これがよいと思います。お金をかけずに心豊かに楽しく暮らせるまち。つまり、部会としての結論はここだと思います。これを全体会に持っていきたい気がします。

馬場委員：直球としてストレートな表現の仕方としては、大変すばらしいと思います。例えば他所の自治体に住んでいる方が足立区を見た場合に、非常に魅力的に感じると。やはりお金がかからずに豊かな暮らしが出来るというのは、まさに単刀直入な、これで行けたらよいなという気がしています。

おぐら委員：私も補足で、実際に毎年やっている区民アンケートの中でも、足立区のいろいろな印象で、物価が安い、家賃が安いと。で、23区の中でも実際にそうなのです。まさに事実なのです。あまりお金をかけずに生活が出来るというのは、そこは23区を比較してもよそにない強みと言うか魅力だと思いますので、そこは非常に斬新だし、一度部会の中の意見として挙げてみてもよいと思います。多分おそらくいろいろな賛否が出ると。あえて議論のたたき台にしてみると面白いと思います。

石阪部会長：このままで行くかどうかは別ですが、部会としては皆さんじっくり落ちていますね。足立区と言うと、お金はそんなにかけないけれども、本当に心豊かに楽しく暮らせるのだという。まさにすべてここを網羅しているような外向けのインパクトもあるし、連帯とか交流とか集うとか、これによって足立区というのは局面を乗り越えていくのだというメッセージはこれで伝わりますし。

おぐら委員：柱としては心の豊かさ、お金をかけずにということと、先ほどあった併記するか別立てにするかは結論は出ないですが、いろいろ大学が進出して若い人が来るとか、いろいろなマンション開発などで若い子育て世代が増えているとか、そういったいろいろなまちの魅力というところも、外に向かって発信していくようなアピール系のところですね。というのも併記するのか、別立てにするのかは分かりませんが、そのようなところも入れていきたいとは思っています。

石阪部会長：分かりました。

大塚委員：一つ心配なのは、お金をかけずにということですが、健康寿命が短いということでそのあたりは問題になりませんか。

石阪部会長：お金をかけずにという表現はいかがでしょうか。

福祉部高齢サービス課長：健康寿命とか介護予防という考え方で行きますと、別にお金がなくても出来ますので、その点は改善していけるものと思っています。

石阪部会長：表現として困ったなという感じにはなりませんか。

福祉部高齢サービス課長：個人的には面白いと思いますが、執行機関としてコメントを求められますと難しいなと思います。前回のご議論でもいただきましたが、お年寄りに優しいということにつながっていくとか、低所得者層の流入が進むとか、足立区の現状の認識としては一番適切な表現のような気もするのですが、では、この先の足立区の構造というものを考えていくと、少し苦しいかなというのが個人的な意見です。

石阪部会長：まず一つとしては、低所得者層が入ってくると。

福祉部福祉管理課長：皆さんもお考えになっているお金をかけずにということの意味そのものが、どのように理解されていくのかなと。情報発信していった時に、やはり足立区って下さいわよね。お金がかからないでやることばかり考えているのねとなると、逆に取られてしまうかなと思います。皆さんがお考えになっているのは、みんなで持ち寄って足立区のためによいことをしていきましょうと。その結果足立区が相乗効果でよい方に向かっていくことをお考えだと思うのですが、そうではない言葉が一人歩きをしていった時に困ると思います。

石阪部会長：つまり、お金がかからないということだけが強調されると、ある意味では外から来る人にとっては非常に多大なサービスを期待するわけですね。足立区というのはお金をかけずに暮らせるかということ、いろいろな援助があるのかとか、あるいはいろいろなことをしてくれるのではないかと見られる場合もあるし、心豊かの方が逆に消える懸念ですね。心豊かに楽しく暮らせるところがメインなわけですから、この表現だと強すぎるというご指摘かと思います。皆さんの意見を集約するプロセスの中で、その辺を参考にしながら、心の豊かさ、ここで言うネットワークのようなものが伝わるような表現をしていった方がよいでしょうか。執行機関としてはやはり難しいでしょうね。

第三者的な立場で非常に面白いと思うのですが。足立区からこういうものが出てきたら、思わずやるな、足立、と思うのですが、執行機関として厳しいというのは非常に理解出来ます。他に何か最後にあれば。少し検討させてください。

益留委員：言い回しで一つあるのですが、一つポンとアピールする言葉が出て、その次にサブタイトルでもないですが、そのようなを入れるのはどうかなと思います。

石阪部会長：例えば、それはメインが非常に分かりにくいインパクトがある言葉で、サブがそれ説明するならそれもよいと。そのやり方も一つですし、二つ並列して並べるというやり方もありますし、一つにすることも出来ると思います。他にいかがでしょうか。では、書き方としては並列にするかくっつけるか、サブタイトル型にするかも私にらせていただくということによろしいでしょうか。

では、50 分になりましたので、皆さんからのご意見はボードにまとめていただいて、コンサルの方にも整理をしてもらったのですが、これを含めると大体皆さんの考え方は分かりましたのでまとめさせていただきます。二本立てにするか一本にするかというのは、12 月 2 日の時に全体会に出す資料としては、こちらでまとめさせていただきます。皆さんが持ち寄ってそれを議論するプロセスの中で例えば修正があるとか、加えたいことがあればそちらの方でご発言いただければと思います。部会としての意見については、私の方でまとめさせていただきます。

それでは、時間になりましたので、本日の審議結果、これを次回全体会で報告させていただきますと思います。もし皆さんからなければ、これで終了とさせていただきます。よろしいでしょうか。では、全体会でお会いします。本日はこれで終了します。

2 事務連絡

基本構想担当課長：それでは、最後に、次回の全体会の開催についてご連絡させていただきます。12 月 2 日の水曜日、午前 10 時から 12 時です。会場は本日と同じとなります。なお、もしもご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等でお知らせいただければ幸いです。本日は誠にありがとうございました。机の下などにお忘れ物をされることがよくございますので、忘れ物のないようによろしくお願いしたいと思います。またお車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お知らせください。本日はどうもありがとうございました。

午前 12:00 閉会